福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	自然科学
２．科目分類	基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	岩田 教一
７．授業形式	教科書に沿って進める。補足の際は、プリント、パソコン等で補助解説する。
８．授業の目標	専門分野に入る前の基礎となる「生物学」について、用語・語彙等を理解してもらう。
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなど 総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	次回の授業までに、前回の復習をしておくこと。ホームワーク提出。
１１．教科書	生物学　全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版社
１２．副読本	参考図書：まるわかり！基礎生物学　小林直人監修　南山堂
１３．推薦参考図書	解剖生理学　監修：坂井　建夫　医学教育出版社

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	生物学オリエンテーション	生物学で学ぶべき内容の説明、授業の進め方について(教科書内容確認)
2	Ⅰ編　生命	1章　生命とは何か　2章　生命の誕生　3章　生命の変遷
3	Ⅱ編１章　組織と細胞-1	①細胞をつくる物質　②生命の単位、細胞
4	Ⅱ編１章　組織と細胞-2	③細胞内には細胞小器官がある　④細胞の様々な活動
5	Ⅱ編2章細胞一生と成り立ち１	①細胞の一生　②単細胞生物と多細胞生物
6	Ⅱ編2章細胞一生と成り立ち２	③ヒトの組織は大きく分けて4種類ある　④ヒトの器官
7	Ⅲ編　生命の連続　1章-1	①生殖の方法　特に有性生殖について
8	Ⅲ編　生命の連続　1章-2	②減数分裂(体細胞分裂と減数分裂について)
9	Ⅲ編　生命の連続　2章-1	①遺伝とその法則　②生命をつくるしくみ
10	Ⅲ編　生命の連続　2章-2	③遺伝子を働かせる仕組み　特にゲノム、セントラルドグマについて
11	Ⅲ編　生命の連続　3章	発生して体をつくる　①発生の過程　②発生の仕組み
12	Ⅳ編　環境と動物の反応１	1章　刺激の受容と反応　特に神経系による刺激の伝達（ニューロン、シナプス）について
13	Ⅳ編　環境と動物の反応２	2章-1 内部環境を保つ仕組み　①ホメオスタシス　②ホルモン
14	Ⅳ編　環境と動物の反応３	2章-2 内部環境を保つ仕組み　③自律神経とホルモンの協調作用　④生体防御
15	Ⅳ編　環境と動物の反応４	3章　動物の行動と進化　①動物の行動　②ヒトの進化と由来　　生物学まとめ
16	前期　期末試験	期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	外国語
２．科目分類	基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	渡邉 明美
７．授業形式	講義及び演習
８．授業の目標	基本的な英語の発音と運用能力を高める
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	極力授業に出席し、示された課題に対し、積極的かつ真面目に発話活動をすること。
１１．教科書	『歯科衛生士教本　歯科英語』　医歯薬出版株式会社
１２．副読本	特にナシ
１３．推薦参考図書	特にナシ

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	English Conversation for Dental Hygienists	Making an Appointment by Telephone
2	English Conversation for Dental Hygienists	Requests for Medicine
3	English Conversation for Dental Hygienists	Emergency Appointments
4	English Conversation for Dental Hygienists	National Health Insurance
5	English Conversation for Dental Hygienists	Asking the Patient to Describe Symptoms
6	English Conversation for Dental Hygienists	Asing the Medical History
7	English Conversation for Dental Hygienists	Periodontal Disease
8	English Conversation for Dental Hygienists	Pregnancy
9	English Conversation for Dental Hygienists	Why Do I Need a Cleaning?
10	English Conversation for Dental Hygienists	Informed Consent
11	English Conversation for Dental Hygienists	Sealants
12	English Conversation for Dental Hygienists	Fluoride Treatment
13	English Conversation for Dental Hygienists	Tooth Brushing Instructions for a Child
14	English Conversation for Dental Hygienists	Tooth Brushing Instructions for an Adult
15	English Conversation for Dental Hygienists	Postoperative Instructions to the Patient
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	解剖学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	浜田 義信
７．授業形式	講義（原則として2F実習室で行い、モニターの映像を利用します）
８．授業の目標	解剖学は医学の基礎となる学問で、医療を志す者すべての必須科目です。 この授業では、人体の正常な構造（形、位置、性状、硬さ、色調など）とその名称を習得することが第一の目標ですが、さらにその形態学的事象の意義（なぜそのような形なのか、なぜその位置なのか、何の目的の構造なのかなど）を理解することもじゅうようです。 なお、具体的な到達目標は各章の冒頭に記載されている項目とします。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト 等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	1.授業は指定された教科書を基本に進められます。ただし、生理学および組織発生学と教科書が併用になりますので各教科の範囲、項目を正確に把握してください。 2.授業の補助教材としてプリントを毎回配布しますが、欠席した場合は担任の先生より受け取ってください（プリントの予備は保管しません）。 3.ホームワークは毎回出題しますが、反復復習が重要となり教科書とともに定期試験の出題範囲とします。 4.授業内容の質問は学習の理解度を深めますので、内容の難易度を問わず歓迎いたします（基本的に木曜日の8時から16時30分の間、授業中を除き講師控室に在室しております）。 5.授業は皆さんが自由に効率よく受講していただきますが、他人の迷惑になるような行為（私語、飲食、スマートフォンの使用など）は厳禁といたします。
１１．教科書	人体の構造と機能1、解剖学・組織発生学・生理学 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	イラストで学ぶ解剖学　第3版、松村譲兒　著、医学書院 ぜんぶわかる人体解剖図、坂井建雄・橋本尚詩　著、成美堂出版

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	解剖学の基礎	解剖学の定義・意義、人体の構成、人体の区分、体の方向用語 ※　シラバス確認
2	骨格系総論	骨の機能、構造、形態、連結（特に関節）、発生
3	骨格系各論	体幹骨（脊椎、肋骨、胸骨、胸郭）、上肢骨（上肢帯の骨・自由上肢骨）、下肢骨（下肢帯の骨・自由下肢骨）
4	筋系総論	筋の定義、形状、、起始・停止、支配神経、関節の運動用語
5	筋系各論	頸部の筋（舌骨上筋、舌骨下筋を除く）、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋 上肢の筋、下肢の筋
6	消化器系① ※中間試験	消化器系の概要、咽頭、食道、胃 ※運動器（骨・筋）試験
7	消化器系②	小腸、大腸、肝臓、膵臓、腹膜

8	脈管系総論	脈管系概要、血管の構造、吻合・終動脈、体循環・肺循環
9	脈管系各論①	動脈系、静脈系
10	脈管系各論②	胎児循環系、リンパ系、胸腺、脾臓
11	神経系①	脳脊髄膜、脳の血管
12	神経系②	末梢神経系（脳神経）
13	神経系③	末梢神経系（脊髄神経、自律神経）、神経の伝導路
14	感覚器系	外皮、視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器
15	生殖器系 解剖学総括	女性生殖器、男性生殖器 まとめ
16		前期　　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	生理学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	宗形 芳英
７．授業形式	講義　（液晶プロジェクタ使用）
８．授業の目標	１．細胞、器官および器官系の基本的機能とその調節機構を理解し、適切な生理学用語で説明する。 ２．器官系を統合する神経系と内分泌の基本的機能とその調節機構を理解し、適切な生理学用語で説明する。
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	教科書をよく読むこと。また予習を行い、不明な点があればすぐに質問をしてその場で理解するように努めること。毎回の授業内容を復習し、自分の理解を確認すること。
１１．教科書	『人体の構造と機能１　解剖学・組織発生学・生理学』 全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	序 生理学で学ぶこと Ⅰ １章　細胞と組織	内部環境の恒常性　外部環境との相互作用　なぜ生理学・口腔生理学を学ぶのか 細胞の構造と機能　細胞の一生　細胞の基本的生理機能
2	Ⅱ ４章　循環	血液の機能　血液の凝固　血液型と輸血　心臓の拍動の調節　心臓の活動電位と心電図体循環・肺循環　血圧　血液量の調節　血圧の調節　ショック
3	Ⅱ ６章　呼吸	外呼吸と肺呼吸 換気の仕組み 肺気量の区分 ガス交換 呼吸ガスの運搬 呼吸の調節
4	Ⅱ ５章　神経系 Ⅱ ７章　感覚	神経系の分類　神経系の基本構造　神経系の基本的機能　中枢神経系　末梢神経系 感覚の基本的性質　体性・内臓感覚　視覚器　平衡聴覚器　味覚器　嗅覚器
5	Ⅱ ２章　筋と運動	筋の構造と機能　運動ニューロン　反射と随意運動　姿勢調節　筋電図
6	Ⅱ ３章　消化・吸収 Ⅱ ８章　排泄	消化と吸収の意義　消化器の構造　口腔での消化　胃の機能　小腸の機能　大腸の機能 排泄とは　排便　皮膚からの排泄　排尿の意義　尿の一般的性質　尿の生成　排
7	Ⅱ ９章　体温 Ⅱ 10章　内分泌 Ⅱ 11章　生殖	体熱の産生 体熱の放散 体温の調節 体温の変動 内分泌器官とホルモン 内分泌器官の構造と機能 性周期 受精と妊娠 分娩と乳汁分泌 更年期
8		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	口腔解剖学Ⅰ
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	浜田 義信
７．授業形式	講義（原則として2F実習室で行い、モニターの映像を利用します）
８．授業の目標	口腔解剖学は歯科衛生士業務を行ううえでの必須科目で、歯科医学の基礎となるものです。この授業では全身解剖学をもとに口腔および口腔付近の構造と名称を目的とします。 なお口腔解剖学は前期と後期でⅠとⅡにわけ、口腔解剖学Ⅰは口腔付近の肉眼像、頭蓋骨、顎関節までの範囲となります。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	基本的な事柄は解剖学と同じですが、頭蓋骨に関しては頭蓋骨模型を用意してありますので、見て触って立体的な構造の理解に努めてください。 なお口腔解剖学のホームワークは口腔の構造や名称を習得するうえで特に重要です。提出するだけでなく、何度も反復復習をしてください（定期試験にも出題します）。
１１．教科書	歯・口腔の機能と構造　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	イラスト顎顔面解剖学、松村譲兒　島田和幸、中外医学社

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	口腔とは①	口腔解剖学概論、口腔付近の表面、口腔前庭（口唇・頬・歯肉）
2	口腔とは②	固有口腔（口蓋・口腔底・舌）
3	口腔を構成する骨① ※中間試験	頭蓋の前面、頭蓋の上面、泉門 ※口腔付近の肉眼像の試験
4	口腔を構成する骨②	頭蓋の側面、頭蓋の下面、頭蓋の内面
5	口腔を構成する骨③	上顎骨、口蓋骨
6	口腔を構成する骨④	下顎骨、舌骨
7	顎関節	骨・軟骨、外側翼突筋、関節円板、関節包、靭帯
8		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	微生物学・口腔微生物学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	大根 光朝
７．授業形式	コンピューターとプロジェクターを使用する講義
８．授業の目標	微生物学の知識を深め、専門科目理解の基礎とし、国家試験のレベルへ到達する.
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義各回で小テストを実施し、学習内容を正しく理解させる.
１１．教科書	微生物学　全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	微生物学テキスト　編集 大根光朝
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	第１章　疾病と微生物	①疾病と微生物　②感染と感染症
2	第２章　微生物の病原性	①微生物の位置づけ　②細菌
3	第２章　微生物の病原性	②細菌　③マイコプラズマ属　④スピロヘータ　⑤リケッチア　⑥クラミジア
4	第２章　微生物の病原性	⑦ウイルス
5	第２章　微生物の病原性	⑧その他の微生物
6	第３章　宿主防御機構と免疫	①宿主防御機構
7	第３章　宿主防御機構と免疫	②細胞傷害性機序
8	第４章　口腔微生物学	①口腔細菌叢　②バイオフィルム
9	第５章　口腔感染症	①う蝕
10	第５章　口腔感染症	②歯内感染症
11	第５章　口腔感染症	③歯周病
12	第５章　口腔感染症	④その他の口腔感染症
13	第６章　化学療法	①化学療法と薬　②化学療法薬　③抗菌スペクトル　④動態　⑤感受性試験
14	第７章　院内感染対策と滅菌･消毒	①院内感染症と対策　②滅菌・消毒　③滅菌・消毒の方法
15	第８章 細菌培養・顕微鏡観察	①培養法　②培地　③顕微鏡観察
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	衛生学・公衆衛生学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年・前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	大沼 英子
７．授業形式	教科書＋スライド（i-padおよび必要に応じたプリント）
８．授業の目標	衛生学・公衆衛生学の基礎を理解することで、健康の保持・増進、疾病の予防などを図ることを目的とする
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	社会や環境など身近な問題に関する内容も多く、また既に学んだ内容も含まれるため、内容の確認を行い、理解を深めてほしい
１１．教科書	医歯薬出版「保健生態学　第３版」
１２．副読本	必要に応じて説明する
１３．推薦参考図書	必要に応じて説明する

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	１章　総論	保健生態学総論　健康　予防医学
2	２章　疫学	疫学概要　疾病に関する指標　疫学の方法
3	３章　人口	世界と日本の現状　人口問題　人口構造　人口統計
4	３章　人口	人口静態統計　人口動態統計
5	４章　健康と環境	環境衛生　環境とは　環境問題空気と大気汚染　温熱環境
6	４章　健康と環境	空気と大気汚染　温熱環水
7	４章　健康と環境	水　水質汚濁　　土壌汚染
8	４章　健康と環境	騒音　悪臭　廃棄物処理
9	４章　健康と環境	放射線　放射線障害　住居・衣類の健康
10	５章　感染症	感染症とは　感染経路
11	５章　感染症	感染症の分類①
12	５章　感染症	感染症の分類②
13	５章　感染症	主な感染症
14	６章　食品と健康	栄養と健康
15	６章　食品と健康	食中毒　まとめ
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科衛生士概論　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等22年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　　前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	柴田　佐智子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	科学的な根拠をもって歯科衛生活動を展開するために歯科衛生過程を学び、歯科衛生士の業務内容や要点を、法律的性格からも理解し、医療保険にたずさわる他職種の方々の業務・資格も相互理解し社会的役割を自覚する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を評点とする。ただし、授業内に実施する小テストやホームワークの内容と提出状況、授業態度を加味する場合がある。
１０．受講上の注意	教科書をよく読み、不明な点があればすぐに質問をしてその場で理解するように努めること。
１１．教科書	最新歯科衛生士教本　「歯科衛生学総論」
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	7章 歯科衛生士の活動と組織	歯科衛生活動の場、現状
2	2章 歯科衛生士の歴史	歯科衛生の誕生と経緯。3台業務内容。歯科衛生士と歯科助手の違い。
3	1章 歯科衛生学とは	歯科衛生と健康。歯科衛生活動の対象：ライフステージに関わる歯科衛生活動。歯科衛生の領域
4 5	3章 歯科衛生活動のための倫理	予防の概念 歯科衛生の考え方：科学的思考（ICF、EBM、批判的思考、保健行動、健康信念モデル、他） ヒューマンニーズ倫理：マズローの欲求階層理論、歯科衛生に関連した8つのヒューマンニーズ
6	4章 歯科衛生過程	歯科衛生過程活用の利点。流れ：5つのプロセスと書面化
7 8	5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 6章 歯科衛生士と医療倫理	歯科衛生士と歯科衛生業務。歯科衛生士の役割。 安全管理：リスクマネジメント、感染予防対策 歯科衛生士と医療倫理：倫理の必要性。医の倫理と患者の権利。歯科衛生と倫理。対象の自己決定権の尊重。インフォームドコンセント。
9		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科予防処置論Ⅰ　　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等22年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　　前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	柴田　佐智子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	う蝕や歯周病などの口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な知識を身につける。 対象となる組織の健康（正常）像を認識し、歯科衛生士が歯や歯周組織の疾患を予防するために行う、予防的歯石除去法、う蝕予防処置法、う蝕活動性試験などの基礎知識について、総合的に学習する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を評点とする。ただし、授業内に実施する小テストやホームワークの内容と提出状況、出欠席、授業態度を加味する場合がある。
１０．受講上の注意	授業で習得した内容は必ず復習し、歯科予防処置実習に活かすこと。
１１．教科書	「最新 歯科衛生士教本、歯科予防処置論・歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会編集　医歯薬出版
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編　総論 1章 歯科予防処置論の概要	歯科予防処置序論 口腔組織の名称と歯牙名称
2		歯科予防処置の位置づけ
3	Ⅱ編 歯科予防処置の基礎知識 １章 口腔の基礎知識	歯の構造、歯面の名称。対象となる組織の健康（正常）像
4		歯周組織図 病的変化を招く因子と組織の病的変化
5	Ⅱ編 2章 う蝕と歯周病の基礎知識	口腔内の付着物・沈着物
6		う蝕とは、歯周病とは
7	Ⅲ編 歯科予防処置各論 2章 口腔内の情報収集	口腔の器質的問題の把握
8		患者からの情報取集口腔内診査 プロービング：得られる情報。操作上の注意 ポケット測定と同時に行うことのできる歯肉評価法
9	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリング（歯石除去に用いられる器材） １．手用スケーラー：手用スケーラーの構成、特徴、使用目的 シックルタイプスケーラー、キュレットの基本操作。術者ポジション
10		
11		２．超音波スケーラー、エアスケーラー
12		歯面研磨・歯面清掃（PTC） １．歯面研磨（ポリッシング）、２．歯面清掃
13		術後の洗浄、器具の後始末
14		シャープニング。スケーリング時の感染予防。
15	総括	前期まとめ
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科予防処置実習Ｉ　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等4年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年　　前期・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	高野　奈美
７．授業形式	実習室での演習および基礎実習
８．授業の目標	歯や口腔への形態を覚え手用器具との関係を理解し、基礎実習・マネキン実習を行う。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、実習態度、実習書の提出状況などにより総合評価とする事がある。
１０．受講上の注意	実習時は身支度をきちんと整え、必要器材を忘れないこと。 配布資料などは整理し保管・管理を行う。事前記入事項は必ず記入
１１．教科書	「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法　第2版」　　医歯薬出版 「最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	2章：手用スケーラーによる基礎知識と基礎運動	器材の配布、スケーラー基礎、基本姿勢、固定、把持法
2		石膏棒を使用した基礎運動
3		マネキン操作MA,HRマーキング、３つの基本運動の検印
4		マネキン顎模型で探針操作（歯牙、硬貨）、シックルタイプスケーラーの操作
5		顎模型上で３つの基礎運動練習
6		顎模型上で３つの基礎運動検印
7	手用スケーラーの基礎運動とマネキンでの部位別操作	部位別操作法　　①33～43番歯
8		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科診療補助論Ⅰ　　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等13年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部　　2部
４．対象学年・対象学期	1学年　　前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	今泉　正子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科診療補助を行うにあたり、その内容と流れを具体的に理解する事が出来る。 主要材料の取り扱いとその特徴を理解する事が出来る。 実習を行う為の基礎知識を習得する事が出来る。
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的 に評価する事もある。
１０．受講上の注意	・教科書を持参。（最新　歯科衛生士教本　「歯科診療補助論」は毎回使用） ・また配布された資料を必要に応じ準備する。 ・講義により修得した内容は必ず復習をし、診療補助実習に生かすこと。 ・授業開始前に、前回の授業の範囲の確認試験を行うので復習をして授業に臨むこと。
１１．教科書	最新　歯科衛生士教本　「歯科診療補助論」 最新　歯科衛生士教本　「歯科材料」 最新　歯科衛生士教本　「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
１２．副読本	最新「歯科衛生学総論」　「歯科臨床概論」　その他
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	1章　歯科診療補助の概念	・診療の補助とは　・診療の補助の範囲の法的な変化
2	2章　医療安全と感染予防	・医療安全
3	2章　医療安全と感染予防	・感染予防
4	2章　医療安全と感染予防	・感染予防　（手洗い）
5	2章　医療安全と感染予防	・感染予防　（滅菌、消毒）
6	2章　医療安全と感染予防	・感染予防　（医療廃棄物）
7	3章 歯科診療における基礎知識	・歯科診療室の基礎知識
8	3章 歯科診療における基礎知識	・共同動作　　（受け渡し）
9	3章 歯科診療における基礎知識	・共同動作　（ポジショニング）
10	3章 歯科診療における基礎知識	・バキュームテクニック
11	3章　歯科診療における基礎知識	・ラバーダム防湿
12	3章 歯科診療における基礎知識	・ラバーダム防湿　（手順）
13	3章 歯科診療における基礎知識	・歯肉圧排
14	3章 歯科診療における基礎知識	・薬品、歯科材料の管理
15	「歯科材料」1章2章	・歯科材料と歯科衛生士　　前期総括
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科診療補助実習Ⅰ　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等10年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・２部
４．対象学年・対象学期	第1学年　前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	佐久間　真紗美
７．授業形式	マネキン実習、相互実習を主体とし、実習志説、講義を組み込んで行う。
８．授業の目標	歯科診療の基本である歯科診療室、器具に関する基礎知識をはじめ、 感染予防対策および共同動作の基本と方法・手技などについて必要な知識と技術を 習得する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、実習態度、実習書の提出状況等により総合評価とする事がある。
１０．受講上の注意	実習開始前には身支度を整え、静かに待機する。必要器材を忘れないこと。 また、実習は常に緊張感を持って取り組まなければいけない。 室内や物品の整理整頓に努め、使用後は各自が責任を持って清掃を行う。 配布資料は順次整理して保管し、適宜活用できるよう工夫すること。
１１．教科書	最新　歯科衛生士教本「歯科診療補助」第２版 最新　歯科衛生士教本「歯科機器」 最新　歯科衛生士教本「歯科材料」
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	・歯科診療室の基礎知識	・歯科診療補助とは ・歯科診療室の環境（空調・照明・受付・診療器材・消毒コーナー） ・歯科用ユニット（各部の名称） ・その他の設備　（キャビネット・口腔外バキュームなど）
2	・歯科診療室の基礎知識	・一般診療器具の名称（基本セットなど）
3	・医療安全と感染予防	・手指衛生について・手指消毒　・手指消毒の分類 ・感染を予防するための基本的手法 ・グローブの付け方・外し方
4	・基礎実習	・衛生材料実習(綿球作製）衛生材料、知識の整理、実習手順と留意点
5	・基礎実習	・衛生材料実習（綿球検印）
6	・基礎実習	・ブローチ綿栓（拭掃用）実習　・ブローチ綿栓（包摂用）実習
7	・医療安全と感染予防	・超音波洗浄器の使い方　・消毒滅菌と消毒・洗浄の定義 ・滅菌法　　高圧蒸気滅菌（オートクレーブ）・ＥＯＧ滅菌 ・消毒法　　器械・器具の消毒法　　・洗浄　（超音波洗浄器）
8	・基礎実習	・拭掃用綿栓検印　　・ニッシン-マネキン取り扱い説明
9	・共同動作の基本	・患者誘導　・共同動作の概念
10	・共同動作の基本	・受け渡し実習・確認印 ・器具の取り扱い 受け渡しの禁忌エリア ペングリップとパームグリップによる受け渡し 小器具等の取り扱い　　（基礎実習）
11	・共同動作相互実習	・ポジショニング・ライティング実習
12	・共同動作相互実習	・患者誘導　・ポジショニング　・ライティング　・受け渡しの確認

13	・共同動作の基本	・バキュームテクニック実習（模型） バキュームの基本技法　　バキュームの目的 バキューム操作の基本 バキューム挿入禁忌部位
14	・共同動作の基本	・バキュームテクニック実習（模型）（歯面研磨）
15	・共同動作相互実習	・バキュームテクニック（相互）各部位のバキュームテクニック
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	臨床検査学演習
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　前期・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	高津　寿夫、佐久間　　真紗美、下山田　真弓、　松本 美香、　高野 奈美
７．授業形式	演習形式
８．授業の目標	歯科臨床の現場で不可欠な臨床検査を中心に学習し，併せて実習を行い実際の生体の反応を観察することでより理解を深める．
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト 等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義，実習を行うため，白衣など実習の準備を行うこと．さらに実習毎に必要事項を必ず実習帳に記載すること．
１１．教科書	最新歯科衛生士教本　臨床検査　医歯薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．年間講義スケジュール

月	単　　元	概　　要
9月 7, 8, 9, 10 日	第１章、第２章, 第４章	第１章、臨床検査とは：臨床検査に関し倫理と安全、必要性、方法、評価法などを概説する。 第２章、生体検査（生理機能検査）：体温、脈拍、血圧などのバイタルサインや心機能検査等および血中酸素濃度などの検査法につき概説し、適宜に実習を行う。 第４章、口腔領域の臨床検査：口臭、味覚、唾液などの検査法、ならびに歯、歯周組織検査法につき概説する。また歯牙疾患の電気的診査法につき実習を行なう。

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科医学演習Ⅰ
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　前期(・後期)
５．単位数	１単位
６．担当講師	大根 光朝 、浜田 義信 、宗形 芳英 、大沼 英子、岩田 教一
７．授業形式	基本的には教科書に従って講義を行い，内容的に不足と思われる事象については，配布資料で補う。同時に「重要項目」を作成し，講義の進行状況に従って，学生にまとめさせる。
８．授業の目標	免疫学と衛生学・公衆衛生学、解剖学・生理学を基本に予防歯科学の基礎について学習する。 基本的な内容は全員が理解把握できるようにし，詳細な事項については，自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。
９．成績評価	原則として，筆記試験により評価する。併せて重要項目のまとめ,授業態度なども評価の対象とする事がある。
１０．受講上の注意	・講義中のノート，配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。 ・出欠席、授業に関わるレポート、小テスト、授業態度、他全てが成績評価に繋がることから、授業には真剣に取り組むこと。
１１．教科書	各教本および配布資料
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	感染症等 他	感染症の成立、感染症の種類と現状、感染症対策の概略（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、検疫法、予防接種）について把握する。 口腔の代表的感染症であるう蝕症、その継発疾患である根尖性歯周炎、および辺縁性歯周炎の発症を免疫の観点から講義する。最終目標は免疫不全とそれらの発症についてである。最終日に口頭試問を行う。
2		
3		
4		
5	食品と健康等 他	食生活が生活習慣病の大きな要因となり，食品中に混入する微生物や化学物質が食中毒などの健康障害の原因になること、さらに食中毒の予防対策についても把握する。また，健康増進、生活習慣病を予防するためには、どのような栄養をどれだけ摂取すれば良いのか、国民の栄養摂取状況と問題点などを把握する。
6		
7		
8		
9	後期	
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科臨床演習Ⅰ
２．科目分類	選択必須分野　　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第１学年　　前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	柴田　佐智子・今泉　正子・佐久間　真紗美・下山田　真弓・松本　美香・高野　奈美
７．授業形式	講義・説明・演習
８．授業の目標	1学年前期で履修した歯科診療補助、予防処置実習の内容を確認すると共に総合的能力を身に付ける
９．成績評価	学期末に行われる実技試験を基本とし、実習態度と各授業における検印表を基にした技術を総合的に勘案し評価とする。
１０．受講上の注意	・実習時は身支度をきちんと整え、必要器材を忘れないこと。・室内や物品の整理整頓に努め使用後は各自が責任を持って清掃を行う。・配布資料などは整理し保管・管理をし、適宜活用できるようにする。
１１．教科書	最新　歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版 最新　歯科衛生士教本「歯科機器」 最新歯科衛生士教本「歯科材料」 「新歯科衛生士教本　歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会　　編集 「最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	歯科予防処置実習	部位別操作②13番歯～23番歯
2	歯科予防処置実習	部位別操作③44番歯～47番歯
3	歯科予防処置実習	部位別操作④14番歯～18番歯
4	歯科予防処置実習	部位別操作⑤34番歯～37番歯
5	歯科予防処置実習	部位別操作⑥24番歯～27番歯
6	歯科予防処置実習	実技試験告知、練習
7	歯科予防処置実習	実技試験
8	歯科予防処置実習	実技試験
9	歯科診療補助実習	バキュームテクニック（相互）
10	歯科診療補助実習	バキュームテクニック（相互）
11	歯科診療補助実習	スリーウェイシリンジとフォーハンドテクニック
12	歯科診療補助実習	スリーウェイシリンジとフォーハンドテクニック
13	歯科診療補助実習	患者誘導からバキュームテクニックまで、実技試験・説明・練習
14	歯科診療補助実習	患者誘導からバキュームテクニックまで、実技試験・説明・練習
15	歯科診療補助実習	実技試験
16	歯科診療補助実習	実技試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	統合演習 Ⅰ
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第１学年　前期（・後期）
５．単位数	１単位
６．担当講師	大根 光朝、浜田 義信、大沼 英子、柴田 佐智子、今泉 正子、岩田 教一
７．授業形式	演習形式
８．授業の目標	これまでに履修した専門基礎分野の各科目に臨床系専門分野の科目を加えて複合的な学習を行い、学科目の枠を越えて横断的に理解し、以後の基礎系および臨床系学科目の学習に連続性を持たせることを目的とする。
９．成績評価	演習科目の特質上、授業への積極的な参加、レポートの評価、そして授業中に行う討論および適宜行う筆記試験を総合的に勘案して評点を付与する。
１０．受講上の注意	・授業では積極的に修学する姿勢で臨み、レポートについても参考図書などを徹底的に活用してまとめあげる。さらに授業に備えての予習、復習を必ず行う。 ・出欠席、授業に関わるレポート、小テスト、授業態度、他全てが成績評価に繋がることから、授業には真剣に取り組むこと。
１１．教科書	微生物学、生物学、解剖学、組織発生学、口腔解剖学、保健生態学、歯科衛生士概論、歯科予防処置、歯科診療補助、生物学の現用教科書、新あるいは最新歯科衛生士教本（医歯薬出版）
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	１．生物とは何か ２．人体の構造と機能 ３．歯、口腔の構造と機能 ４．口腔と微生物 ５．健康、環境、食品と疾患 ６．歯科衛生士と業務	生命科学のさまざまな分野へと知識を発展させるための基礎を広範に学習する。 人体の構造と機能を有機的に結びつけながら総合的に学習する。あわせて臨床的視点からも学習する。 歯と口腔の構造と機能を人体全体の一部として位置づけし、多視的に学習する。あわせて臨床的観点からも学習する。 口腔常在菌について総合的に学習し、あわせて病原性微生物に起因する口腔疾患について学習する。 日常生活に関連する環境問題や食品問題およびそれらに起因する疾患について学習しさらに予防法を学習する。 歯科衛生士の主要業務に関する法的背景や生物学的および歯科臨床工学的学理と応用の実際を広範に学習する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9	後期	
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	職業教育Ⅰ
２．科目分類	応用分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第1学年　前期　後期
５．単位数	８単位
６．担当講師	下山田 真弓、柴田 佐智子、今泉 正子、佐久間 真紗美、松本 美香、 高野 奈美、他
７．授業形式	講義及び演習
８．授業の目標	・学年・クラスを越えて、歯科衛生士業務を知る。 ・学生間の親睦を深め協調性を学ぶ。 ・様々な講義を聴き、歯科衛生士及び他職種の資格について知識を深め、 職業意識を高める。
９．成績評価	各授業におけるレポート作成、提出。出欠席。
１０．受講上の注意	欠席しないこと。事前準備を怠らないこと。
１１．教科書	
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	4月7日	オリエンテーション
2	4月23日	職業教育（1学年・2学年合同） ･1学年・2学年合同でマネキンなどを用いて歯科衛生士業務を知る。
3		
4		
5	6月20日	学術論文大会
6		
7	7月4日	チャレンジテスト、ワークショップ
8		

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	生命科学　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等16年勤務）
２．科目分類	基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1・2部
４．対象学年・対象学期	第3学年　前期
５．単位数	2単位
６．担当講師	松本　美香
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科衛生士が生化学、栄養学を学ぶ意義を理解し、口腔の健康を維持・増進していくための知識を得る。
９．成績評価	期末試験の結果により評価する。
１０．受講上の注意	不定期に確認テストを行う
１１．教科書	最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能2　栄養と代謝
１２．副読本	保健生態学
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編1章　生体の構成要素	・細胞の役割・生体における水
2		・生体構成成分と栄養素
3	2章　生体における化学反応	・消化と吸収・酸素の運搬と二酸化炭素の排出・代謝
4	3章　糖質と脂質の代謝	～主要なエネルギー基質～　・糖質の代謝とエネルギーの生成　・脂質の代謝とエネルギーの生成
5	4章 タンパク質とアミノ酸の代謝	・タンパク質の加水分解・アミノ酸の代謝分解・タンパク質の合成
6		
7	5章 生体における恒常性の維持	・恒常性（ホメオスタシス）とは・ホルモン系と自律神経
8	Ⅱ編1章 歯と歯周組織の生化学	・歯と歯周組織・結合組織・歯
9	2章　硬組織の生化学	・血清中のカルシウムとリン酸・石灰化の仕組み・骨の生成と吸収・歯の脱灰と再石灰化
10	3章　唾液の生化学	・唾液の組成と機能・無機質・有機質
11	4章　プラークの生化学	・プラークの生物活性（プラークの種類、プラークの形成、プラークによる糖からの酸酸性）
12		・プラークの生物活性・プラークによるう蝕発症機構～多因子性疾患としてのう蝕～
13		・プラークの生物活性・プラークによる口臭発症機構、歯周疾患発症機構
14	Ⅲ編１章　栄養の基礎知識	・食生活と栄養・栄養素の消化吸収
15	２章　食事摂取基準	・エネルギー必要量・基礎代謝
16		・日本人の食事摂取基準
17		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	社会科学
２．科目分類	基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第３学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	高津　寿夫
７．授業形式	講義は基本的には教科書に従い、プリントと映像機器や黒板を使って講義する。また内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布し説明する。
８．授業の目標	歯科医学は一般医学と同様に厳密な意味では自然科学に分類されにくいところがある。また医療・歯科医療は“生命の価値”を追求する領域とされている。このような意味で医学・歯科医学には社会科学的要素がきわめて多く存在する。即ち、行動科学、経済・経営学、社会化論、法学、システム科学、情報科学等々の事柄である。特に最近の医療現場では法律に関係する特異な問題が数多く見られるようになってきた。そこで本授業では歯科医療の実際を、社会的背景としての患者の自己決定権、生命倫理、インフォームド・コンセント、医療事故防止策等を考慮しつつ社会的規範としての“法”を通して考察することとする。
９．成績評価	期末試験の成績とする
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用出来るように努める。
１１．教科書	歯科の法律、著者：小室歳信、医師薬出版
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	日本国憲法 歯科医師法　刑法	１．生活の基盤を支える学問　２．歯科医師の身分保障　３．医療行為の条件
2	医療法　民法　診断書	１．インフォームドコンセントを考える　２．医師と患者の法律関係　３．診断書にまつわる話
3	診断書　処方箋　薬剤師法	１．診断書記載および交付時の留意点　２．処方箋の交付義務　３．抜歯後の投薬がもたらしたアスピリン喘息死裁判
4	保健指導　診療録の作成 診療録の保管	１．保健指導の留意点　２．診療録の作成について　３．カルテの保存義務にまつわる話
5	品位保持義務　届出義務 無診療診療の禁止	１．品位保持義務違反にまつわる話　２．歯科医師の届出義務にまつわる話　３．無診察診療等の禁止について
6	守秘義務　歯科衛生士法 歯科衛生士の業務範囲	１．医師の守秘義務について　２．歯科衛生士法にまつわる話　３．歯科衛生士の業務範囲
7	医療法　転医　医療機関名	１．医療法にまつわる話　２．転医勧告および転医時説明義務　３．医療機関名の定義について
8	医療法　開設の許可と届出 管理者　広告	１．開設許可と開設の届出　２．診療所の管理者　３．広告の制限
9	医療事故　ハインリッヒの 法　則　医療過誤	１．医療事故にまつわる話　２．医療事故の分類　３．医療過誤の成立条件

10	社会的制裁　刑法上の制裁 民法上の制裁　医道審議会	１．医療事故における制裁（その一）　2.　制裁（その二）　３．制裁（その三）
11	注意義務　歯科医療の特質	１．医療事故発生時の留意点　２．歯科医事紛争の防止対策　３．医事紛争の防止策（その二）
12	欠格条項　カルテの開示 POMR	１．障害者等等にかかわる欠格条項の適正化　２．カルテ開示とＰＯＭＲ　３．歯科診療録もＰＯＭＲ
13	ＳＯＡＰ インフォームド・コンセント	１．診療録のＰＯＭＲとＳＯＡＰ　２．インフォームド・コンセントが無視されたエホバの証人無断輸血裁判　３．医療過誤事件における医療関係者の責任（その一）
14	医療における信頼の原則 応招の義務	１．医療過誤事件における医療関係者の責任（その二） ２．苦手な患者が来院したとき…
15	補遺（１）	授業内容の補充
16	補遺（２）	授業内容の復習とまとめ
17		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	高齢者・障害者歯科学Ⅰ
２．科目分類	選択必修分野（必修）
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・２部
４．対象学年・対象学期	第３学年　前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	高津　寿夫（高齢者歯科；１部）、佐久間　真紗美（障害者歯科） 大沼　英子（高齢者歯科；２部）
７．授業形式	講義。基本的には教科書に従い、プリントと映像機器や黒板を使って講義する。また内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布し説明する。
８．授業の目標	わが国では今、超高齢社会を迎え、社会のあらゆる分野で対応が急がれている。また高齢者から小児に至るまで幅広い年齢層にわたって障害者といわれる人々が生活している。歯科医療関係者にとっても、これらの人々の口腔健康の改善、維持、増進をはかることは大きな社会的使命である。本授業では両者を有機的に結びつけつつ講義する。即ち、高齢者歯科学では歯科衛生士の視点から高齢者の位置付け、身体的・精神心理的特徴、社会的問題等につき説明し、それらを踏まえて歯科治療に必要な留意事項ならびに心と体にどう接するかなどを講義する。障害者歯科学では先ず障害の概念と障害者の身体的・精神心理的特徴と現況、障害の種類と歯科的特徴などを概説し、それらを踏まえて歯科衛生士にとって必要な歯科診療と歯科診療補助に関する留意事項を講義する。なお、その到達目標としては基本的な事柄は全員が理解できるようにし、詳細で深い内容の事柄については、興味をもって自らが学習意欲を示し、かつ理解を助成させ得る講義となるように努める。
９．成績評価	前期　期末試験の結果で評価する。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用出来るように努める。
１１．教科書	最新歯科衛生士教本　高齢者歯科（第2版）著者：植田　耕一郎ほか、医歯薬出版 最新歯科衛生士教本　障害者歯科（第2版）著者：向井　美恵ほか、医歯薬出版
１２．副読本	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション（第2版）著者：植田耕一郎編集代表　医歯薬出版
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	（障害者歯科） 1章	1章　障害の概念 ①歯科医療におけるスペシャルニーズ　②障害の分類 ③生活機能に特別な支援を必要とする人のQOL ④ノーマライゼーションとバリアフリー ⑤スペシャルにニーズの発生とその受容 ⑥障害のある人と医療・福祉制度の仕組み
2	（障害者歯科） 2章	2章　歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①精神発達・心理的発達と行動障害 ②運動障害（神経・筋系疾患）　③感覚障害 ④音声言語障害　⑤精神および行動の障害 ⑥その他-障害のある人への虐待
3	（障害者歯科） 3章	3章　障害者の歯科医療と行動調整 ①コミュニケーションの方法 ②行動療法（行動変容法） ③体動のコントロール ④薬物的行動調整法
4	（障害者歯科） 4章	4章　健康支援と口腔衛生管理 ①障害者本人や介助者が行う口腔のケアへの支援 ②専門的口腔ケア ③特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理

5	（障害者歯科） 5章	5章　リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価 ②障害別のリスクと対応 ③医療安全管理体制 ④感染制御体制
6	（障害者歯科） 6章	6章　摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 ①摂食・嚥下リハビリテーションとは　②摂食・嚥下障害と口腔管理 ③摂食・嚥下障害と栄養管理　④摂食・嚥下障害の評価法　　⑤摂食機能療法 ⑥小児期の摂食・嚥下障害への対処法 ⑦成人期・老年期の摂食・嚥下障害の評価と対処法 ⑧摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割と他職種連携
7	（障害者歯科） 7章・8章	7章　地域における障害者歯科 ①障害者歯科と地域医療連携　②障害者歯科と関連職種 ③保健・医療・福祉のネットワーク　④一次医療機関における障害者歯科 ⑤二次医療機関における障害者歯科　⑥三次医療における障害者歯科 8章　障害者歯科における歯科衛生士過程 脳性麻痺（アテトーゼ型）患者・ダウン症候群患者
8	（障害者歯科）	授業内容に関する補充および復習とまとめ
9	（高齢者歯科） 序章、Ⅰ編　１章、２章	序章、高齢者歯科と歯科衛生士の役割　①－はじめに Ⅰ編　高齢者をとりまく社会と環境 １章、高齢社会と健康　①－人口の高齢化、②－総人口・少子化・高齢者の人口・高齢化率、　③－寿命と死因、④－歯科疾患実態調査からみた高齢者の特性、⑤－高齢者の健康　　２章、高齢者にかかわる法制度　①－老人保健・医療・福祉対策の経緯
10	（高齢者歯科） Ⅰ編　２章、３章	②－介護保険制度 ３章、高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴　①－高齢者の居住場所を規定する要件　②－高齢者の居住する場所と設備の特徴
11	（高齢者歯科） Ⅱ編　１章、２章	Ⅱ編　加齢による身体的・精神的変化と疾患 １章、加齢に伴う身体的機能の変化　①－全身的変化、②－口腔・咽頭領域の加齢変化 ２章、高齢者の精神・心理的変化　①－老化による心理的変化、②－老化以外の心理的変化―うつ・せん妄、③－高齢者の精神・心理的変化をふまえたコミュニケ―ションとは
12	（高齢者歯科） Ⅱ編　３章	３章、高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患 ①－主たる死因となる疾患（８疾患）
13	（高齢者歯科） Ⅱ編　３章 Ⅲ編　１章	②－高齢者に特有な口腔疾患（５疾患） Ⅲ遍　高齢者の状態の把握 １章、高齢者の生活機能の評価　①－生活・ADL評価、②－認知機能の評価
14	（高齢者歯科） Ⅲ編　２章	２章、高齢者歯科と臨床検査　①－バイタルサイン（４事項）、 ②－血液検査（５検査）
15	（高齢者歯科） Ⅲ編　３章、４章	３章、高齢者の栄養状態　①－低栄養になりやすい高齢者の栄養評価、 ②－経口摂取の代償による水分・栄養摂取法 ４章、高齢者の薬剤服用　①－高齢者における薬物に影響を与える因子、②－薬物に対する反応性の変化、③－薬物の相互作用、④－服薬管理、⑤－薬物治療上の注意点、⑥－頻用される代表的な薬剤の口腔に関する副作用
16	（高齢者歯科） 補遺	授業内容に関する補充および復習とまとめ
17		前期　定期試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	高齢者・障害者歯科学Ⅰ
２．科目分類	選択必修分野（必修）
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・２部
４．対象学年・対象学期	第３学年　前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	高津　寿夫（高齢者歯科；１部）、佐久間　真紗美（障害者歯科） 大沼　英子（高齢者歯科；２部）
７．授業形式	講義。基本的には教科書に従い、プリントと映像機器や黒板を使って講義する。また内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布し説明する。
８．授業の目標	わが国では今、超高齢社会を迎え、社会のあらゆる分野で対応が急がれている。また高齢者から小児に至るまで幅広い年齢層にわたって障害者といわれる人々が生活している。歯科医療関係者にとっても、これらの人々の口腔健康の改善、維持、増進をはかることは大きな社会的使命である。本授業では両者を有機的に結びつけつつ講義する。即ち、高齢者歯科学では歯科衛生士の視点から高齢者の位置付け、身体的・精神心理的特徴、社会的問題等につき説明し、それらを踏まえて歯科治療に必要な留意事項ならびに心と体にどう接するかなどを講義する。障害者歯科学では先ず障害の概念と障害者の身体的・精神心理的特徴と現況、障害の種類と歯科的特徴などを概説し、それらを踏まえて歯科衛生士にとって必要な歯科診療と歯科診療補助に関する留意事項を講義する。なお、その到達目標としては基本的な事柄は全員が理解できるようにし、詳細で深い内容の事柄については、興味をもって自らが学習意欲を示し、かつ理解を助成させ得る講義となるように努める。
９．成績評価	前期　期末試験の結果で評価する。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用出来るように努める。
１１．教科書	最新歯科衛生士教本　高齢者歯科（第2版）著者：植田　耕一郎ほか、医歯薬出版 最新歯科衛生士教本　障害者歯科（第2版）著者：向井　美恵ほか、医歯薬出版
１２．副読本	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション（第2版）著者：植田耕一郎編集代表　医歯薬出版
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	（障害者歯科） 1章	1章　障害の概念 ①歯科医療におけるスペシャルニーズ　②障害の分類 ③生活機能に特別な支援を必要とする人のQOL ④ノーマライゼーションとバリアフリー ⑤スペシャルにニーズの発生とその受容 ⑥障害のある人と医療・福祉制度の仕組み
2	（障害者歯科） 2章	2章　歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①精神発達・心理的発達と行動障害 ②運動障害（神経・筋系疾患）　③感覚障害 ④音声言語障害　⑤精神および行動の障害 ⑥その他-障害のある人への虐待
3	（障害者歯科） 3章	3章　障害者の歯科医療と行動調整 ①コミュニケーションの方法 ②行動療法（行動変容法） ③体動のコントロール ④薬物的行動調整法
4	（障害者歯科） 4章	4章　健康支援と口腔衛生管理 ①障害者本人や介助者が行う口腔のケアへの支援 ②専門的口腔ケア ③特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理

5	（障害者歯科） 5章	5章　リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価 ②障害別のリスクと対応 ③医療安全管理体制 ④感染制御体制
6	（障害者歯科） 6章	6章　摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 ①摂食・嚥下リハビリテーションとは　②摂食・嚥下障害と口腔管理 ③摂食・嚥下障害と栄養管理　④摂食・嚥下障害の評価法　　⑤摂食機能療法 ⑥小児期の摂食・嚥下障害への対処法 ⑦成人期・老年期の摂食・嚥下障害の評価と対処法 ⑧摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割と他職種連携
7	（障害者歯科） 7章・8章	7章　地域における障害者歯科 ①障害者歯科と地域医療連携　②障害者歯科と関連職種 ③保健・医療・福祉のネットワーク　④一次医療機関における障害者歯科 ⑤二次医療機関における障害者歯科　⑥三次医療における障害者歯科 8章　障害者歯科における歯科衛生士過程 脳性麻痺（アテトーゼ型）患者・ダウン症候群患者
8	（障害者歯科）	授業内容に関する補充および復習とまとめ
9	（高齢者歯科） 序章、Ⅰ編　１章、２章	序章、高齢者歯科と歯科衛生士の役割　①－はじめに Ⅰ編　高齢者をとりまく社会と環境 １章、高齢社会と健康　①－人口の高齢化、②－総人口・少子化・高齢者の人口・高齢化率、　③－寿命と死因、④－歯科疾患実態調査からみた高齢者の特性、⑤－高齢者の健康　　２章、高齢者にかかわる法制度　①－老人保健・医療・福祉対策の経緯
10	（高齢者歯科） Ⅰ編　２章、３章	②－介護保険制度 ３章、高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴　①－高齢者の居住場所を規定する要件　②－高齢者の居住する場所と設備の特徴
11	（高齢者歯科） Ⅱ編　１章、２章	Ⅱ編　加齢による身体的・精神的変化と疾患 １章、加齢に伴う身体的機能の変化　①－全身的変化、②－口腔・咽頭領域の加齢変化 ２章、高齢者の精神・心理的変化　①－老化による心理的変化、②－老化以外の心理的変化―うつ・せん妄、③－高齢者の精神・心理的変化をふまえたコミュニケ―ションとは
12	（高齢者歯科） Ⅱ編　３章	３章、高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患 ①－主たる死因となる疾患（８疾患）
13	（高齢者歯科） Ⅱ編　３章 Ⅲ編　１章	②－高齢者に特有な口腔疾患（５疾患） Ⅲ遍　高齢者の状態の把握 １章、高齢者の生活機能の評価　①－生活・ADL評価、②－認知機能の評価
14	（高齢者歯科） Ⅲ編　２章	２章、高齢者歯科と臨床検査　①－バイタルサイン（４事項）、 ②－血液検査（５検査）
15	（高齢者歯科） Ⅲ編　３章、４章	３章、高齢者の栄養状態　①－低栄養になりやすい高齢者の栄養評価、 ②－経口摂取の代償による水分・栄養摂取法 ４章、高齢者の薬剤服用　①－高齢者における薬物に影響を与える因子、②－薬物に対する反応性の変化、③－薬物の相互作用、④－服薬管理、⑤－薬物治療上の注意点、⑥－頻用される代表的な薬剤の口腔に関する副作用
16	（高齢者歯科） 補遺	授業内容に関する補充および復習とまとめ
17		前期　定期試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	審美歯科学
２．科目分類	選択必修分野
３．対象学科	歯科衛生士科　　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第３学年　　前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	①正田 光典、②柴田 佐智子
７．授業形式	・教室でのプロジェクター使用の講義（正田） ・実験室での講義、演習、基礎実習および基礎実習室での相互実習（柴田）
８．授業の目標	・審美の概念を学ぶとともに、審美修復に必要な知識を身に付ける。 ・継続した口腔ケアを通して、さまざまな口腔状況・全身疾患を持った患者さんへのヘルスケアだけでなく、プライマリケア領域でおこなう歯科専門知識を取得する。 ・審美歯科の基礎を学び、種々の審美やホワイトニングの方法をアドバイスできる力を身につける。
９．成績評価	学期末に行う期末試験により評価とする。
１０．受講上の注意	・講義中のノート、配布資料は学生自身が工夫し、整理整頓して保管すること。 ・実習中は身支度を整え、必要器材を忘れないこと。 ・専門的技術習得のために基礎知識の復習を怠らないこと。 ・実習室においては歯科診療室と仮定し臨むこと。
１１．教科書	「新 ＰＭＴＣ］　医歯薬出版株式会社 「歯科衛生士ベーシックホワイトング」医歯薬出版株式会社
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1		①最新審美補綴総論
2		①最新審美補綴総論
3		①最新審美補綴総論
4	第１・２章	②PMTCについて（総論）
5	第１・２・３章	②ホワイトニング（概要、コンサルテーション、模型調整、ベースラインシェード確認）
6		①最新審美補綴の現状（各種インプラント治療）
7		①最新審美補綴の現状（各種インプラント治療）
8	第２章	②ホームホワイトニングについて、注意事項、カスタムトレー作製方法
9		②ホームホワイトニングカスタムトレー作製 ②PMTC：エバチップ・プロフィンハンドピース使用方法
10		①最新審美補綴の現状（CAD/CAMシステム）
11		①最新審美補綴の現状（CAD/CAMシステム）
12	第４章	②PMTCの実際
13		②PMTCの実際
14	第２章	②オフィスホワイトニング概要説明
15		②オフィスホワイトニング
16		②オフィスホワイトニング
17	期末試験	

福島医療専門学校

2020年度　講義計画書（前期）

１．科目名	実践教育
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1・2部
４．対象学年・対象学期	第3学年　前期・後期
５．単位数	1単位
６．担当講師	松本美香、柴田佐智子、今泉正子、佐久間真紗美、下山田真由美、高野奈美、他
７．授業形式	講義および演習
８．授業の目標	・学術論文大会…歯科衛生士、および多職種の資格についての知識を深めるとともに職業意識を高める。 ・臨地実習という実践の場での経験や体験から得た自らの学びをまとめ、報告する。さらに作成、発表をすることで論文の基礎を修得する。
９．成績評価	学術論文大会…出欠席、レポート　　症例報告会…発表内容及び発表態度全般
１０．受講上の注意	欠席をしないこと
１１．教科書	
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	6月20日	・学術論文大会
2		
3	9/23,24	・症例報告会
4		
5		
6		
7		
8		

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	隣接医学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	大沼 英子
７．授業形式	教科書＋スライド（i-padおよび必要に応じたプリント）
８．授業の目標	身体の基礎（解剖学・生理学など）と病態の基礎（病理学など）を基にして実際の口腔と関連する全身疾患の理解する
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト 等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	解剖学・生理学・病理学など関連する内容について講義の内容に合わせて適宜復習をし、基礎的知識の確認をしながら疾患を理解してほしい
１１．教科書	医歯薬出版 「デンタルハイジーン別冊　歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」
１２．副読本	必要に応じて説明
１３．推薦参考図書	必要に応じて説明

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	序論／代謝・内分泌疾患	隣接医学とは　代謝・内分泌　代謝・内分泌疾患①
2	代謝・内分泌疾患	代謝・内分泌疾患②
3	消化器疾患	消化器の機能　消化器疾患①
4	消化器疾患	消化器疾患②
5	循環器疾患	循環器の機能　循環器疾患
6	血液疾患	血液疾患
7	呼吸器疾患	呼吸器疾患
8	呼吸器疾患／腎・泌尿器疾患	呼吸器疾患　腎・泌尿器の機能　腎・泌尿器疾患①
9	腎／泌尿器疾患	腎・泌尿器疾患②
10	感染症	感染と免疫　膠原病
11	感染症	感染症
12	神経疾患／精神疾患	神経疾患　精神疾患①
13	精神疾患	精神疾患②
14	がん／産科・婦人科疾患・妊娠	がん　産科・婦人科疾患・妊娠
15		まとめ
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	口腔衛生学Ⅱ
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	①高津　寿夫、②宮澤　忠蔵
７．授業形式	①基本的には教科書に従って、プリントと映像機器や黒板を使って講義を行い、内容的に不足と思われる事象については、配布資料で補う。同時に「重要項目」を作成し、講義の進行状況に従って、学生にまとめさせる。 ②基本的には教科書に従い、内容をまとめた配布資料をもとにプロジェクターを用いて講義を行う。毎回、前回講義の重要事項の理解度を小テストで確認しながら進行する。
８．授業の目標	①基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。 ②疫学の基本を学習して、疫学の基本的手法を用いて疾病の原因や主訴の要因を解明する技法を理解する。歯科疾患および口腔清掃状態などを疫学指標で数量化する方法を理解する。
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義中のノート、配布資料、小テストや重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
１１．教科書	最新歯科衛生士教本：保健生態学　第3版、保健情報統計学（医歯薬出版株式会社）
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	平成28年歯科疾患実態調査結果の概要　国民衛生の動向2018/2019（厚生労働統計協会）

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	保健生態学 Ⅱ編　５章	Ⅱ編　歯・口腔の健康と予防 ５章、フッ化物によるう蝕予防　①－わが国のフッ化物応用、②－フッ化物の一般的性状と用語、③－人間生態系におけるフッ化物、④－フッ化物摂取量とその基準、⑤－フッ素の代謝、　⑥－フッ化物の毒性（急性）
2	保健生態学 Ⅱ編　５章	⑥－フッ化物の毒性（慢性）、⑦－フッ化物応用によるう蝕予防方法（１、２）
3	保健生態学 Ⅱ編　５章	⑦－フッ化物応用によるう蝕予防方法（３，４，５，６）、⑧－フッ化物のう蝕予防メカニズム、⑨－ライフステ―ジに応じたフッ化物応用法
4	保健生態学 Ⅱ編　６章	６章、歯周疾患の予防　①－歯周疾患の症状と分類、②－歯周疾患の発症機序、③－歯周疾患の全身に与える影響、④－歯周疾患の予防手段と処置
5	保健生態学 Ⅱ編　７章	７章、その他の疾患・異常の予防　①－口内炎、②－口腔癌、③－不正咬合、④－顎関節症、　⑤－歯の形成不全、⑥－口臭症、⑦－口腔乾燥症
6	保健生態学 Ⅱ編　8章	8章、ライフステージごとの口腔保健管理　①－口腔保健管理の目標
7	保健生態学 Ⅱ編　8章	②－母子口腔保健、③－小児期の口腔保健
8	保健生態学 Ⅱ編　8章	④－成人期・老年期の口腔保健。補遺
9	2章保健情報と疫学（1）	疫学総論：疫学の定義および基本を学び、医療情報の疫学分析から健康障害の発生要因を疫学的に導き出す手法を理解する。
10	2章保健情報と疫学（2）	疫学の方法論1：調査方法、有病と罹患、記述疫学、分析疫学を理解する。
11	2章保健情報と疫学（3）	疫学の方法論2：介入研究、スクリーニング（疾病と検その関係）を理解する。
12	3章歯科疾患の指数（1）	数量化と指数：指標と指数、歯科疾患の疾患量を指数化することを理解する。
13	3章歯科疾患の指数（2）	う蝕の指数1：う蝕の診断基準、WHOの診断基準、う蝕の表現方法を理解する。
14	3章歯科疾患の指数（3）	う蝕の指数2：DMF者率、DMF歯率、DMF歯面率、DMFT指数、DMFS指数、def、dmfなどを理解する。
15	3章歯科疾患の指数（4）	歯周疾患の指数：全部診査法と部分診査法、PMA Index、GI、PI、PDI、CPIなどを理解する。
16		前期 期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	う蝕学
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　 1部・２部
４．対象学年・対象学期	第二学年　前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	高津　寿夫
７．授業形式	基本的には教科書に従い、iPadと黒板を使って講義する。また、内容的に不足と思われる事柄については参考プリントを配布し説明する。なお適宜、他の映像機器を用い、理解の向上を図る。
８．授業の目標	歯や歯周組織の疾患や病的状態を治療除去し、その固有の形態と機能を回復する方法ならびに予防やメインテナンスを攻究する歯学分野は歯科保存学と呼称されている。本学問分野は対象とする病巣の部位・範囲や病態の違いにより、う蝕学と歯周病学に区分され、さらに前者は保存修復学と歯内療法学に細分化されている。しかしながら三者は内容的に全く独立したものではなく、相互に有機的に結びついた関係にあり、歯の保存に当たってはこれら三部門にわたる総合的な治療を必要とする場合も多い。授業は上記の事柄を踏まえ、前期で保存修復学および歯内療法学についてう蝕学として講義し、歯周病学は後期に講義することとする。そこで先ず保存修復学、歯内療法学に関し、齲蝕をはじめとする歯の硬組織疾患、それに継発する歯髄病変や根尖性歯周病変についての病態の把握・診断と各種の治療法ならびに予防やメインテナンス等について学び、知識と理解力を習得させることを目標とする。また各診療システムやその流れを通じて歯科衛生士の役割を学生に自覚してもらうことも目標とするものである。なお、その到達目標としては、基本的な事柄は全員が理解できるようにすることとする。また詳細で深い内容の事柄については、興味をもって自らが学習意欲を示し、かつ理解を助成させ得る講義となるよう努めることとする。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト 等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	板書された説明、追加事項は講義ノートや配布プリントあるいは教科書余白の要所に記入し、講義内容の有機的理解に役立つようにする。また配布資料は順次整理して保管し、適宜に活用できるように努める。
１１．教科書	保存修復・歯内療法（最新歯科衛生士教本）、第１版、著者：千田　彰、中村　洋　ほか 医歯薬出版
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	保存修復学（第６版）、編集：千田　彰　ほか、医歯薬出版 歯内治療学（第４版）、編著：中村　洋　ほか、医歯薬出版

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編　１章、２章	Ⅰ編、歯の保存療法とは １章、歯の保存療法の種類 ①歯の保存療法と歯科保存学、　②対象となる疾患、 ２章、口腔検査（歯および歯周組織） ①口腔検査の基礎知識と前準備、②医療面接、③現症の検査
2	Ⅱ編　１章	Ⅱ編、保存修復 保存修復の概要 ①保存修復学とは、　②窩洞と保存修復治療、　③保存修復治療の概要
3	Ⅱ編　１章、２章	④保存修復治療の準備、⑤歯の切削、窩洞形成、⑥歯髄の保護、⑦保存修復法の種類 2章、直接法修復 ①コンポジットレジン修復
4	Ⅱ編　２章	①コンポジットレジン修復、　②セメント修復
5	Ⅱ編　３章	３章、間接法修復 ①インレーおよびアンレー修復、②ベニア修復
6	Ⅱ編　３章、４章	③合着材および接着材 ４章、保存修復における歯科衛生士の役割 ①検査・診断時の業務、　②保存修復時の診療補助業務(1)
7	Ⅱ編　４章	②保存修復時の診療補助業務（２）、③器材、薬剤の保管・管理

8	Ⅲ編　１章	Ⅲ編、歯内療法 １章、歯内療法学の概要 ①歯内療法学とは、②歯内疾患（主な疾患）の概要と原因、③歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類と症状、④歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の処置
9	Ⅲ編　２章、３章	２章、歯髄保存療法 ①歯髄鎮痛消炎法と歯髄鎮痛消炎薬、②覆髄法、 ３章、歯髄の除去療法　①歯髄切断法、②抜髄法
10	Ⅲ編　４章	４章、根管治療、根管充填　①根管治療の基本概念
11	Ⅲ編　４章	②根管治療の術式、③根管充填、④根未完成歯の根管処置
12	Ⅲ編　５章、６章	５章、外科的歯内療法、 ６章、歯の外傷 ①歯の外傷の概要、②歯の外傷の分類と処置、③歯の保存液を用いた歯の保存法
13	Ⅲ編　７章、８章	７章、歯内療法における安全対策 ８章、歯内療法における歯科衛生士の役割 ①検査・診断時の業務、②歯髄処置時の診療補助業務
14	Ⅲ編　付	③器材、薬剤の管理、 付章、歯のホワイトニング（ブリーチング）
15	補遺	授業内容に関する補充および復習とまとめ
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科補綴学
２．科目分類	専門科目
３．対象学科	歯科衛生士科　１・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	正田光典
７．授業形式	プロジェクターを用いた講義
８．授業の目標	歯科補綴に関する基礎知識を習得させ，歯科補綴の臨床を補助し得るだけの能力を身につけることを目標とする．
９．成績評価	定期試験成績を基本とするが、ホームワーク等の提出状況を総合的に勘案して評価を行う事もある。
１０．受講上の注意	配布資料ならびに教科書の予習と復習
１１．教科書	最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常Ⅰ　歯科補綴　第２版
１２．副読本	歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック第２版
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編１章・２章	補綴歯科治療の基礎知識
2	Ⅰ編１章・Ⅱ編２章	固定性補綴装置（ｸﾗｳﾝの分類と特徴）
3	Ⅰ編１章・Ⅱ編２章	固定性補綴装置（ｸﾗｳﾝの分類と特徴）
4	Ⅰ編１章・Ⅱ編２章	固定性補綴装置（ﾌﾞﾘｯｼﾞの種類と特徴）
5	Ⅰ編１章・Ⅱ編２章	固定性補綴装置（ﾌﾞﾘｯｼﾞの種類と特徴）
6	Ⅰ編１章・Ⅱ編３章	可撤性補綴装置（全部床義歯の分類と構造）
7	Ⅰ編１章・Ⅱ編３章	可撤性補綴装置（全部床義歯の分類と構造）
8	Ⅰ編１章・Ⅱ編３章	可撤性補綴装置（部分床義歯の分類と構造）
9	Ⅰ編１章・Ⅱ編３章	可撤性補綴装置（部分床義歯の分類と構造）
10	Ⅱ編２章	ｸﾗｳﾝ・ﾌﾞﾘｯｼﾞ治療の実際、治療時の業務、患者指導
11	Ⅱ編２章	ｸﾗｳﾝ・ﾌﾞﾘｯｼﾞ治療の実際、治療時の業務、患者指導
12	Ⅱ編３章	有床義歯治療の実際、治療時の業務、患者指導
13	Ⅱ編３章	有床義歯治療の実際、治療時の業務、患者指導
14	Ⅱ編３章・４章	有床義歯治療の実際、治療時の業務、患者指導、ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ治療の概要
15	Ⅰ編２章・３章	咬合様式と顎運動、歯の欠損に伴う障害
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	口腔外科学・歯科麻酔学
２．科目分類	専門基礎分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	大根 光朝
７．授業形式	コンピューターとプロジェクターを使用する講義
８．授業の目標	口腔外科学・麻酔学の理解を深め、国家試験のレベルへ到達する.
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	講義各回で小テストを実施し、学習内容を正しく理解させる.
１１．教科書	口腔外科・歯科麻酔　全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
１２．副読本	口腔外科・歯科麻酔学テキスト　編集 大根光朝
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	１章　口腔外科の概要
2	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	２章　顎・口腔領域の先天異常と発育異常
3	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	３章　顎・口腔領域の損傷および機能障害
4	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	４章　口腔粘膜の病変
5	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	５章　顎・口腔領域の化膿性炎症疾患
6	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	６章　顎・口腔領域の嚢胞性疾患
7	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	７章　顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患
8	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	８章　唾液腺疾患
9	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	９章　口腔領域の神経疾患
10	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	10章　口腔外科診療の実際
11	Ⅰ編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	10章　口腔外科診療の実際
12	Ⅱ編 歯科治療と歯科麻酔	１章　歯科治療における歯科麻酔と患者管理　２章　局所麻酔
13	Ⅱ編 歯科治療と歯科麻酔	３章　精神鎮静法　４章　全身麻酔
14	Ⅲ編 臨床と歯科衛生士のかかわり	１章　検査・診査時の業務　２章　口腔外科・歯科麻酔処置における業務
15	Ⅲ編 臨床と歯科衛生士のかかわり	３章　歯科衛生士が行う術前・術後ケアと器材の管理
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	小児歯科学
２．科目分類	専門科目
３．対象学科	歯科衛生士科　１・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	２単位
６．担当講師	正田光典
７．授業形式	プロジェクターを用いた講義
８．授業の目標	小児歯科に関する基礎知識を習得させ，臨床を補助し得るだけの能力を身につけることを目標とする．基礎知識では，特に小児期の成長・発達，永久歯列完成までの咬合変化を習得させる．
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、ホームワーク等の提出状況を総合的に勘案して評価を行う事がある。
１０．受講上の注意	配布資料ならびに教科書の予習と復習
１１．教科書	最新歯科衛生士教本　小児歯科
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	なし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編１章	小児歯科概論
2	Ⅰ編２章	心身の発育
3	Ⅰ編２、４章	心身の発育
4	Ⅰ編２、４章	心身の発育
5	Ⅰ編３章	小児の生理的特徴
6	Ⅰ編５章	歯の発育とその異常
7	Ⅰ編５章	歯の発育とその異常
8	Ⅰ編６章	歯列・咬合の発育と異常
9	Ⅰ編６章	歯列・咬合の発育と異常
10	Ⅰ編７章	小児の歯科疾患（乳歯・幼若永久歯のう蝕）
11	Ⅰ編７章	小児の歯科疾患（小児にみられる歯周疾患）
12	Ⅰ編７章	小児の歯科疾患（小児にみられる口腔軟組織疾患）
13	Ⅱ編１，２章	小児歯科診療（小児期の特徴とその対応）
14	Ⅱ編３章、Ⅲ編３章	小児歯科診療（小児期治療の実際）、小児歯科診療における診療補助
15	Ⅲ編３章、Ⅲ編３章	小児歯科診療（小児期治療の実際）、小児歯科診療における診療補助
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科矯正学
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第２学年・前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	大沼　英子
７．授業形式	講義は教科書を主体とし、スライド（iPad）を使用して行う。適宜プリント等を配布する。
８．授業の目標	**歯科矯正治療の目的、顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因、さらには不正咬合の診断、年齢に応じた治療内容の実際などを学ぶことで、不正咬合によってもたらされる障害、矯正装置の口腔衛生が与える影響、さらには矯正治療の中での診療補助・予防処置・口腔衛生指導の重要性を理解する。また、歯科衛生士として処置、指導を実践していく上で、柔軟に各内容を行える基本を身につけることを目標とする。**
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト 等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	解剖・生理、診療補助・予防処置・口腔衛生など関連する内容について、必要に応じて各自補足で学習し、内容の補足、充実させてほしい
１１．教科書	**「最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常2　歯科矯正」 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社**
１２．副読本	必要に応じて適宜紹介する
１３．推薦参考図書	必要に応じて適宜紹介する

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編１章　矯正歯科学概論 Ⅱ編７章　保健適用される矯正治療	矯正歯科学とは何か？矯正治療の歴史と必要性
2	**2章　成長・発育**	身体および頭蓋・顎顔面、歯牙・歯列の成長発育と口腔機能の発達
3	**3章　咬合①**	正常咬合と不正咬合、不正咬合の種類
4	**3章　咬合②**	不正咬合の原因と予防法
5	**4章　矯正歯科診断①**	矯正歯科診断と必要な検査
6	**4章　矯正歯科診断②**	症例分析-非抜歯治療と抜歯治療
7	**5章　矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定**	矯正力の種類と歯の移動様式、歯牙の移動と固定、保定
8	**6章　矯正装置①**	矯正装置の種類と用途について（可撤式矯正装置と固定式矯正装置）
9	**6章　矯正装置②**	矯正装置の種類と用途について（機能的矯正装置～保定装置）
10	**Ⅱ編　1・2・3章　歯科矯正治療の実際①**	上下顎の前後、垂直的不調和と小児～成人の矯正歯科治療
11	**4・5章　歯科矯正治療の実際②**	口腔顎顔面の形成異常と歯の埋伏、歯数の異常
12	**6章　歯科矯正治療の実際③**	矯正治療時のトラブルとその対応
13	**Ⅲ編　1・2章　歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割①**	歯科矯正臨床における歯科衛生士の業務（問診・検査・検査の補助、器具・材料の準備と取り扱い）
14	**3・4章　歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割②**	口腔保健管理と口腔筋機能療法（患者への対応、口腔衛生管理、保健指導、MFTの器具と指導）

15	5章　歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割③	器具・材料、文書の管理
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科予防処置実習Ⅱ　　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等4年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　　１部　　２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　前期・（後期）
５．単位数	1単位
６．担当講師	高野　奈美
７．授業形式	実習室での演習・基礎実習及び基礎実習室での相互実習
８．授業の目標	歯・口腔の状況の把握及び歯科予防処置の基礎的技術を修得する。
９．成績評価	学期末に行う期末試験により評価を基本とするが、検印表の達成度の判定や、実習態度と提出物により、加味評価をする事がある。
１０．受講上の注意	実習時は身支度を整え、必要器材を忘れない。実習書の事前記入事項は忘れずに記入
１１．教科書	「最新　歯科衛生士教本　歯科予防処置・歯科保健指導」　　医歯薬出版
１２．副読本	「最新　歯科衛生士教本　歯周病学」　　医歯薬出版
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅲ編　歯科予防処置・歯科保健指導各論 3章　歯科衛生士介入の為の 歯科予防処置・	シックルタイプスケーラー操作復習（マネキン）相互実習の手順
2		シックルタイプスケーラー相互実習・歯面研磨①～⑥ 13～23番歯、14～17番歯、33～43番歯、44～47番歯、24～27番歯、24～27番歯、34～37番歯を 部位別操作法で全8コマの中で行う
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		グレーシータイプキュレット操作法・基礎訓練（顎模型）歯石探査
11		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習①33～43、13～23番歯（顎模型・人口歯石除去）
12		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習②14～17、44～47番歯（顎模型・人口歯石除去）
13		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習③24～27、34～37番歯（顎模型・人口歯石除去）
14		グレーシータイプキュレット操作法・基礎練習の検印
15		実技試験周知（顎模型）
16		前期　期末試験

福島医療専門学校

２０２０年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科保健指導論Ⅱ　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等17年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部・2部
４．対象学年・対象学期	第2学年　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	下山田　真弓
７．授業形式	講義・実習
８．授業の目標	歯科衛生士の主要業務である歯科保健指導の意義・目的を正しく理解し、歯科保健行動の変容へつなぐ、情報を収集し適切な指導の基礎となる、観察・対象把握力を身につける。
９．成績評価	学期末に行う期末試験を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テスト 等を総合的に評価する事もある。
１０．受講上の注意	教科書持参・指示されたものを持参する。
１１．教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	最新歯科衛生士教本「保健生態学」 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション　第2版
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅳ編歯科衛生活動の展開	ライフステージにおける歯科衛生介入　①妊産婦期
2		ライフステージにおける歯科衛生介入②新生児期・乳幼児期
3		ライフステージにおける歯科衛生介入③幼児期
4		ライフステージにおける歯科衛生介入④学齢期
5		地域歯科保健活動
6		ライフステージにおける歯科衛生介入⑤青年期
7		ライフステージにおける歯科衛生介入⑥成人期
8		ライフステージにおける歯科衛生介入⑦老年期
9		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科診療補助論Ⅲ　　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等13年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部　　2部
４．対象学年・対象学期	2学年　　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	今泉　正子
７．授業形式	講義
８．授業の目標	歯科診療補助を行うにあたり、その内容と流れを具体的に理解する事が出来る。 主要材料の取り扱いとその特徴を理解する事が出来る。 実習を行う為の基礎知識を習得する事が出来る。
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・小テストなどを総合的 に評価する事もある。
１０．受講上の注意	・教科書を持参。(最新　歯科衛生士教本　「歯科診療補助論」は毎回使用) ・また配布された資料を必要に応じ準備する。 ・講義により修得した内容は必ず復習をし、診療補助実習に生かすこと。 ・授業開始前に、前回の授業の範囲の確認試験を行うので復習をして授業に臨むこと。
１１．教科書	最新　歯科衛生士教本　「歯科診療補助論」 最新　歯科衛生士教本　「歯科材料」 最新　歯科衛生士教本　「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
１２．副読本	最新「歯科衛生学総論」　「歯科臨床概論」　その他
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-仮封・仮着の補助
2	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-仮封・仮着の補助
3	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	4-成形歯冠修復の補助
4	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-成形歯冠修復の補助
5	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-成形歯冠修復の補助
6	Ⅰ編5章 歯科診療で扱う歯科材料	5-成形歯冠修復の補助
7	Ⅱ編2章3章 周術期と訪問診療	周術期のおける歯科診療補助、歯科訪問診療における対応　　前期総括
8		前期　期末試験

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科診療補助実習Ⅲ　　※実務経験のある教員の授業科目　（歯科医院等13年勤務）
２．科目分類	専門分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部　2部
４．対象学年・対象学期	2学年　　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	今泉　正子
７．授業形式	講義及び実習室での基礎実習、　相互実習
８．授業の目標	・歯科診療の基本である歯科診療室に関する基礎知識をはじめ、感染予防対策 および共同動作の基本と方法などについて必要な知識と技術を習得できる。 ・歯科主要材料の取り扱いを習得する。
９．成績評価	期末試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出・検印などを総合的 に評価する事もある。
１０．受講上の注意	・実習時は身支度を整え、必要な器材や教科書・資料を忘れない事。 ・室内や物品の整理整頓に努め使用後は各自が責任をもって返却を行し、清掃を行う。 ・配布資料は順次整理をして保管をし、適宜活用できるようにする。
１１．教科書	最新　歯科衛生士教本　「歯科診療補助論」 最新　歯科衛生士教本　「歯科材料」 最新　歯科衛生士教本　「歯科機器」 必要な教科書は予め指示するが、毎回あると尚良い。
１２．副読本	歯科衛生士教本　「保存修復・歯内療法」「口腔外科」「歯科補綴」「歯周病学」等
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・仮封材　（水硬性仮封材/サンダラックバーニッシュ）
2	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・仮封材　（テンポラリーストッピング）
3	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・仮封材　（酸化亜鉛ユージノールセメント/仮封用軟質レジン）
4	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・個人トレー作成　（精密印象）
5	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・個人トレー作成　（精密印象）
6	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・成形歯冠修復材　（コンポジットレジン）
7	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・成形歯冠修復材　（充填用グラスアイオノマーセメント）
8	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・成形歯冠修復材　（コンポジットレジン研磨）
9	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・隔壁法　（タッフルマイヤーリテーナー）
10	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・暫間被覆冠作成
11	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・暫間被覆冠作成
12	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・車いす、抑制、介護法
13	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・車いす、抑制、介護法
14	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・口腔内撮影
15	5章 歯科診療で扱う歯科材料	・口腔内撮影
16		後期　期末試験

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科医学演習Ⅱ
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	高津寿夫、正田光典、下山田真弓、大根光朝、宮澤忠蔵、大沼英子
７．授業形式	演習形式とするが、講義では教科書に従って行い、内容的に不足と思われる事柄については、配布資料で補う。同時に「重要項目」を作成し、講義の進行状況に従って、学生にまとめさせる。
８．授業の目標	ライフステージを通じ、歯・口腔の健康管理に必要な事柄を基礎的・臨床的見地から多角的に検討する。基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。
９．成績評価	原則として筆記試験により評価する。併せて重要項目のまとめ、授業態度なども評価の対象とすることがある。
１０．受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
１１．教科書	口腔衛生学、歯科予防処置論、う蝕学、小児歯科学、歯科補綴学、口腔外科学、歯科矯正学の現用教科書．最新歯科衛生士教本（医歯薬出版）
１２．副読本	なし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．年間講義スケジュール

月	単元	概　　要
8月25, 26日、9月9, 10日	歯・口腔の健康と疾患・障害：ライフステージごとの予防、治療、リハビリと口腔保健管理	ライフステージは妊産婦期、乳幼児期、学齢期、思春期、成人期、老年期に大別される。これら人の生涯を通じ、それぞれの時期における口腔内の健康・障害も変化する。それぞれの時期にどのような対応と保健管理が必要となるか把握する。基礎的および臨床的見地から検討する。

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	職業教育Ⅱ
２．科目分類	応用分野
３．対象学科	歯科衛生士科　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　前期・後期
５．単位数	１単位
６．担当講師	高野 奈美、柴田 佐智子、今泉 正子、佐久間 真紗美、下山田 真弓、松本 美香、他
７．授業形式	講義及び演習
８．授業の目標	・様々な講義を聴き、歯科衛生士および他職種の資格について知識を深め、職業意識を高める。 ・歯科関連職種の実際の活動を体感することにより、歯科医療のイメージをつかみ、更に将来の自身の歯科衛生士像について考える機会とする。
９．成績評価	各授業におけるレポート。出欠席
１０．受講上の注意	欠席しないこと。事前準備を怠らないこと。
１１．教科書	
１２．副読本	
１３．推薦参考図書	

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	4月24日	職業教育1.2年生合同 相互実習で習得してきた、患者対応、歯面研磨の術式を他学年に対して安全に施術する
2		
3	6月20日	学術論文大会
4		
5	7月18日	福島県歯科衛生士会学生セミナー
6		
7	9月23日	3学年症例報告会の聴講
8	9月24日	

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	統合演習Ⅱ
２．科目分類	選択必修分野　必修
３．対象学科	歯科衛生士科　　１部・２部
４．対象学年・対象学期	第２学年　　前期
５．単位数	１単位
６．担当講師	園田 正人、遠藤 克哉、菅野 洋子
７．授業形式	演習形式とするが、講義では配布プリントや黒板を使って行う。なお適宜映像機器を用い、理解の向上を図る。
８．授業の目標	近年、我が国においては世界に類を見ない速さで人口の高齢化が進んでいる。これに伴い医療面においては多様で、より包括的な対応が求められている。その結果、歯科医療においても他職種と連携して協働を行う機会が多くなっている。一方、人々の健康を危機的に脅かすものとして、まだ記憶に深在する東日本大震災に代表される“大規模災害”が挙げられる。健康危機発生時の支援、管理の重要性が歯科界を含め喚起され、その整備が急がれている。本科目では、上記のような社会事象が取り巻く歯科界に注目し、斯界で活躍されている外部講師の方々に実際の現場についての講義をお願いすることとした。もって学生には後期後半からの臨地実習に向け、幅広い知識の涵養に努めさせることを目標とするところである。
９．成績評価	筆記試験や課題に対するレポート内容での評価を基本とする。併せて受講態度や積極性なども評価の対象とする事がある。
１０．受講上の注意	講義中のノートや配布資料は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
１１．教科書	特になし
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．年間講義スケジュール

月	単　元	概　　要
9月 7, 8, 15, 16日	１．訪問歯科 ２．摂食嚥下障害 ３．災害支援活動	１．訪問歯科について 超高齢社会を迎えた我が国においては、さまざまな理由により通院できない患者さんは多い。対応内容は歯科治療から口腔ケアに至るまで広範囲にわたっている。本テーマにおいては豊富な経験をおもちの講師から、その概要をはじめ多様な現場の実際活動や留意事項等について講義を受け、当該分野に関する知識と理解を深めたい。 ２．摂食嚥下障害への対応について 嚥下機能障害が原因で誤嚥性肺炎となる頻度は加齢とともに急増する。これを主因とする肺炎による死亡率は2011年を境として第3位に浮上し、その対策が急務となっている。本テーマについては主として介護施設において、多くの利用者が抱える多様な摂食嚥下障害に取り組んでこられた講師から、その実態とリハビリテーションの実際などの初歩について講義を受ける。もって臨地実習や3年次の高齢者・障害者歯科学の理解につなげたい。 ３．災害支援活動について 平成23年3月11日、当地域は大地震から始まる大災害に襲われた。当時、本県歯科衛生士会会長職にあられた本テーマの講師は震災直後から1次避難所における救急医療支援や口腔ケアなどの支援活動に支部リーダーとして邁進された。その後、近隣他地域での支援活動や平成7年時の阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、日本歯科衛生士会は平成25年3月に、“災害支援活動歯科衛生士実践マニュアル”を作成した。本講義では当時の支援活動の実際をお話しいただくとともに、被災後のフェーズの推移に応じた支援のあり方や連携の取り方などについてお聞きし、本テーマに関する知識を深めたい。

福島医療専門学校

令和２年度　講義計画書（前期）

１．科目名	歯科臨床演習Ⅲ　（歯科予防処置実習・歯科診療補助実習　系）
２．科目分類	選択必須分野
３．対象学科	歯科衛生士科　1部　2部
４．対象学年・対象学期	2学年　　前期
５．単位数	1単位
６．担当講師	柴田佐智子・今泉正子・佐久間真紗美・下山田真弓　・高野奈美・松本美香
７．授業形式	講義及び実習室での基礎実習、　相互実習
８．授業の目標	・歯科診療の基本である歯科診療室に関する基礎知識をはじめ、感染予防対策 および共同動作の基本と方法などについて必要な知識と技術を習得できる。 ・歯科主要材料の取り扱いを習得する。 ・歯・口腔の状態の把握及び歯科予防処置の基本的技術を修得する。
９．成績評価	実技試験成績を基本とするが、授業態度・課題の提出状況を総合的に評価する事もある。 検印表等がある場合は、技術確認も統合的に勘案していく。
１０．受講上の注意	・実習時は身支度を整え、必要な器材や教科書・資料を忘れない事。 ・室内や物品の整理整頓に努め使用後は各自が責任をもって返却を行し、清掃を行う。 ・配布資料は順次整理をして保管をし、適宜活用できるようにする。
１１．教科書	最新　歯科衛生士教本　「歯科診療補助論」 最新　歯科衛生士教本　「歯科材料」 最新　歯科衛生士教本　「歯科機器」 新　　歯科衛生士教本「歯科予防処置」 最新　歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
１２．副読本	特になし
１３．推薦参考図書	特になし

１４．講義スケジュール

回数	単　　元	概　　要
1	5章 歯科診療で扱う歯科材料	予防処置実習Ⅱ　：　実技試験
2		予防処置実習Ⅱ　：　実技試験
3	5章 歯科診療で扱う歯科材料	診療補助実習Ⅲ　：　歯肉排除
4	Ⅲ編 歯科予防処置・歯科保健指導各論 ３章歯科衛生士介入野為の 歯科予防処置	予防処置実習Ⅱ　：　シャープニング
5		予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー（エアスケーラー、歯面清掃器を含む）　基礎 ①特徴及び基本使用法　②基本操作練習（顎模型）
6		
7		予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー　相互実習①
8		予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー　相互実習①
9		予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー　相互実習②
10		予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー　相互実習②
11	5章 歯科診療で扱う歯科材料	診療補助実習Ⅲ　：　実技試験周知
12		診療補助実習Ⅲ　：　実技試験周知
13		診療補助実習Ⅲ　：　実技試験
14		診療補助実習Ⅲ　：　実技試験
15	Ⅲ編 歯科予防処置・歯科保健指導各論 ３章歯科衛生士介入野為の歯科予防処置	予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー　相互実習③
16		予防処置実習Ⅱ　：　超音波スケーラー　相互実習③